

## ○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

こんにちは。黒岩幸生でございます。9月も半ばになりますと、朝晩めっきり涼しくなりまして、きょうなんか寒かぐらいやったですね。大変——春眠暁を覚えずと言いますけれども、秋眠暁を覚えずという感じがしたところでございます。

ことしの夏は、御承知のとおり、大変暑い日が続きまして、そしてまた深夜のオリンピックということで、多くの方が寝不足になられたのではなかろうかと思えます。新聞やテレビによりますと、眠気覚ましが10倍売れたという話があります。やっぱりスポーツっていいですね。本当に私は武雄市議会において、特に思ったところでございますけれども、いろんな場面で感激しました。パラリンピックの国枝選手ですか、車椅子でテニスの白球を追いながら、そして2連覇したと。パラリンピックの場合、なかなか連勝はできないというような状態なんですね。そんな中で2連覇されたということですね。

けさなんか、みのもんたを見られた方がおられると思えますけれども、ゴールボールというんですか、目の不自由な方が3人で守っていて、ボールの中に鈴をつけて、それを転がしてゴールをとると、これも金をとられたんですね。

オリンピックもいろいろ感じるどころがあったんですけども、2つほど感動の場面を挙げますと、私、1つは水泳の松田選手、この方がこうおっしゃったんですね。「康介さんを手ぶらで日本へ帰すわけにいかない」と言ったんですね。後輩ですよ。普通、スポーツの世界でこういうことを言えば、鼻持ちならんとか、おまえ、のぼせとっじゃとなるんですけども、それが素直に聞こえたんですね。そして「27人のメドレーだ」と言われたですかね。そういうすばらしい面がございませう。

もう1つ挙げますと、どうしても挙げたいのがあの内田（316ページで訂正）航平選手ですね。御承知のとおり、彼は予選で鉄棒のときに落ちたんですよ。手を伸ばしたけど、鉄棒に届かなかった。そして、落ちられたんですね。これまで恐らく何千回、あるいは何万回してきたことが、予選とはいえ、一番大事なオリンピックで落ちたんですよ。それだけならまだしも、男子の団体の決勝戦、鞍馬、最後の瞬間に崩れて落ちたんですね。そしたら、その瞬間、メダルに届かなかったんですよ。そのときの内田（316ページで訂正）選手の顔が大きくアップされておりましたけれども、本当に何とも言えないような顔をしておりました。自分のせいでこうなったかなということでしょうね。しかし、御承知のとおり、監督さんたちの抗議によって、最後は倒立をしたんだというのが認められて、メダルをとったんですね。私が言いたいのはそこじゃなくて、その後なんですよ。つまり、一番大事なところで鉄棒から落下し、そしてまた、団体戦で崩れ落ちた、その2日後が個人総合戦だったんですね。そして、この個人総合で見事世界一になられたんですよ。そのときの精神力、これは本当にスポーツはすばらしいなあと思ったんですね。これを中心としたまちをつくりたいというふうに思ったところでございます。

市長さんは、そのときは外国に行っておられたということがありますがけれども、感動の場面がありましたら、お教えいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

さまざま感動はしたんですけれども、私はやっぱりちょっと変わっておるんですかね。一番感動したのは開会式。もう開会式でじーんと来たですもんね。みんながこれから国を背負って頑張るぞとかですね。ポール・マッカートニーが「ヘイ・ジュード」を歌われたときに、みんな合唱しよんさったですもんね。最後に聖火がばあっと花のように集まっていくのを見たときに、やっぱり震えのとまらんやったですね。ですので、その開会日と最後のやっぱり閉会式ですよ。もうみんなが重圧から解放されて、みんな笑顔で、国を越えて和気あいあいしよんさつとば見て、そのときに私はやっぱりこれぞスポーツだということを、特にこの武雄市議会と対峙しているときにそう思いました。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

市長さん、開会式を感動した人は変人じゃないと思います。私もですからね。

（全般モニター使用）これは実は9月12日、きょうの佐賀新聞ですね。何が載っていたかといいますと、きのう牟田議員さんがレースのことを言われましたけれども、武雄市が建設と。さらには、日本初の国際公認コースということで、きょうこの新聞に載ってきました。「武雄市は、オリンピック競技にもなっているバイシクル・モトクロス（BMX）のレースコースを建設する。日本初の国際公認コースにする計画で、競輪とともに自転車スポーツのメッカとしてのイメージを育て、温泉や観光と結びつけて武雄をアピールする」。すごいですね。「来夏までに建設地を決め、2015年度までの完成を目指す」ということで、この言葉を聞いたら、私のきょうの質問は半分は終わったんですよ。これをぜひ、スポーツを中心としたまちをつくらうと、そしてもやもやを吹き飛ばそうと、きょう言ったんです。ちょうど記者さんがおられました。いや、私は新聞を見るたびに武雄の悪口しか書いちゃらんで。きょうはもうほんなごてうれしかったですよと横尾記者さんに言うところが、いや、ちゃんと隣に書いていますよと。（笑い声）

それで、今回、4件について質問したいと思います。

まず、1つですけれども、明るく朗らかなまちづくりをしようということですね。

1つは、今言いましたように、スポーツを中心に、何か明るいものを中心として、そういうまちづくりの機運と、もう1つは、市長はこの前、シリコンバレーに行かれたといいます。最先端の技術を使った、そしてやっぱり稼げる自治体、この2つにしなければならないと思

うんですね。この両面を持った武雄市づくりをしていきたいというのが1つですね。

それから、放射能問題、これは去年の6月からずうっと言っていますけれども、放射能をどうするか。福島原発に何を学ぶかですよ。政府は一向にしない。じゃあ、我々はどうかということなので質問をしてみたいと思います。

3番目は、議会提案への考え方。これから執行部はやっぱりもっともっと詳しく、例えば、モニターを使ってその説明をするとか、議員たちはある程度勉強しておるけんよかろうじゃなくて、やはり市民の皆さんにわかるような、私を中学生と置いていいですから、中学生にわかるような説明をお願いしたいということですね。

それから、4番目ですけども、もちろん市民が一丸となった、そういう武雄市をつくっていこうという考え方ですね。世界の武雄というような位置づけをすれば、もう今、隣がどうだとか、隣をまねしようとかじゃなくて、前を向いて、そして飛び抜けていこうという考えで、4点について質問をいたしたいと思います。

これは市長が感動したという、私も感動したパラリンピックの開会式なんですね。本当にもうパラリンピックも感動しました。まず掲げてあるのが、やっぱり基本的人権なんですよ。体が不自由な人のために、やっぱり基本的人権が全てなんですね。そして、もう1つ思ったのが審判団の方と選手が一同になって、やっぱりスポーツマンシップ、健常者以上に、やっぱりフェアプレーということが求められたんですね。これは大会旗を8人の選手の人が車椅子で大会旗掲揚のところに運んでおられる姿なんですね。8人が片手で車椅子を持って、片手で大会旗を持って、大会旗掲揚台に行かれている姿でございます。これが掲揚台に上がった大会旗ですね。今回は、世界から164カ国、そして4,300人の方が参加したんですね。この中で、車椅子で来られたスティーブン・ホーキング博士は、とにかく寝たきりですよ。目の前にタッチパネルがあって、そしてメッセージを寄せられました。いかに人生が困難だと思っても、人には必ず成功できるものがあるとおっしゃったんですね。やはりこういう心のメッセージが出るんですね。

これは大会旗でございます。赤、青、緑、御承知のとおり光の三原色ですね。絵の具の三原色は赤、青、黄ですね。だから、この3つを合わせれば透明になるんですね。赤は燃える心をあらわすんですね。緑は伸び行く健常な、しっかりした若々しい身体をあらわす。そして、青は冷静沈着な精神をあらわすんですね。これがシンボルカラーです。

さらに、これはロンドンオリンピックのオリンピックスタジアムですね。これを見ただけで我々は興奮しますので、現場におれば、物すごく興奮するものと思うんですね。気持ちが高揚していくものと思うんですね。

今回は、メダルが38個、世界第6位。当初は、メダルはなかなかとれないと思っていたんですね。しかし、結果的には史上最高の38個をとりました。つまり、悪い言い方ですけど、当てにしたところはとれんで、やっぱり後退しているという状態が大きくあらわれたところ

ですね。スポーツといえば、必ず出るのがスポーツマンシップ、これはスポーツマンにふさわしい態度ですね。スポーツマンにふさわしい態度というのは、正々堂々、公明正大に勝負を争う姿ですね。このことをやはり武雄市のテーマにして、1つ決まったら、次に向かっていくと。コップに水をついたら、コップを揺するんじゃなくて、その水を足していくと。そういう前向きな武雄市にしていきたいと思うんですね。

2016年の夏はリオデジャネイロですね。そして、2020年は東京かマドリード、今は3つとか、2つに1つぐらいですね。東京はいろいろ勝っているけど、勝っていないのが1つあるんですよ。つまり、関心が46.7%と、半分以下なんですね。東京オリンピックはいろいろな面があると思いますが、私が思うのは、こういうものを通して精神を上げていく、活力を持っていく、そして日本が一本になっていくという本当のシンボルになっていくと思うんですけども、市長はこのことに対してどのようにお考えか、答弁を求めたいと思いますが、12時でございますので、議長のほうでよろしくお願いします。

**○議長（杉原豊喜君）**

ここで議事の都合上、1時20分まで休憩をいたします。

休	憩	11時59分
再	開	13時20分

**○議長（杉原豊喜君）**

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続ける前に、4月の臨時教育委員会の開催期日について、教育長から説明をさせてほしいとの申し出がっておりますので、これを許可いたします。浦郷教育長

**○浦郷教育長〔登壇〕**

貴重な質問の時間をいただき、申しわけありません。

昨日、御指摘いただきましたように、平成19年度以降、毎年4月末の臨時教育委員会、その議事録において、開催期日記入をたがえておりました。他意はありませんでしたけれども、結果的に信頼を損ねる行為になりましたことを大変申しわけなく思っております。

今後、このようなことがないよう信頼回復をすべく努めていきたいと思っております。ここにおわびを申し上げます。申しわけありませんでした。

**○議長（杉原豊喜君）**

一般質問を続けます。

市長の答弁から。樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

東京オリンピックについての賛否ですけども、きのうまで東京オリンピックに反対でしたけれども、きょうから賛成に切りかえたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

市長さん、オリンピックの考え方ですよ。やはり建物をつくるためのオリンピックだったら反対であっても、精神高揚といえればいいのじゃなからうかと思えます。

これは8月20日の銀座ですよ。もう人、人、人やったですね。50万人の大歓声を起こしたんですね。これは東京都知事が仕掛けたという話もありますけど、それは別としても、やはりメダリストたちの凱旋パレードということで多くの人が集まったんですね。今回、特に私が注目したいのはこの方ですよ。吉田沙保里選手、レスリングで3連覇された方ですよ。この方は三重県の津市からですね。ここでも凱旋パレードが行われております。私を取り上げたいのは、この三重県の取り上げ方ですけれども、これはイメージ図ですけれども、三重県の津市では、今、総合スポーツ施設の建設中なんですよ。新聞に載ったのが100億円の豪華プレゼント。それはどういうことかといいますと、吉田沙保里アリーナということでつけたんですね。それは、御承知のとおり、オリンピックの55キロ級レスリングで3連覇を達成されたんですね。アテネ、北京、そしてロンドンですね。今度はリオデジャネイロですね。ぜひとも4連覇を達成してほしいという県民の願いですね。こういう盛り上がりがあるんですよ。

総合スポーツ施設の必要性というのは、6月議会、3月議会とずうっと言ってきたことですけれども、整理してみますと、スポーツの普及、これはもちろんのことですよ。それと、技術力の向上ですね。さらには、これには公式な競技会と書きましたけれども、高度な競技会ですね。オリンピックを初め、いろんな高度なことを見ることによって、精神、気持ち、活力が湧いてくるということですね。さらには、合宿とかキャンプを通して人的交流が進むし、これが経済効果を生んでいくということです。

それから、もちろん、災害時の緊急避難場所ですね。そこに救助機能を備えておれば、一番避難場所として役立つ。

もう1つ言うのは、これはきのう市長さんも言われましたけれども、このことですね。市民の健康づくり、医療費削減。今回、国保税の改定がうたわれております。それはどうしようもないことといたしますか、お医者さんに払うお金、医療費、この払う金よりも集める金が少なかったら、何とか上げにやいかんわけですね、人は払ってくれませんから。きのうの質問のように、国が払えばいいですよ、ほかの人が払えばいいですよ。払ってくれない今の制度では、やはりどんなに不公平であっても、国保加入者は払わなければならぬですね。そういうこともありますけれども、もう1つ、医療費を下げれば税が上がらないんですね。そういうことから、健康づくりは医療費削減につながるんだということをみんなで考えて、みんなが頑張れば、やはり2割、3割は減るかもしれないということですね。

そこで、ただいま吉田沙保里アリーナを言いました。そのように、三重県みたいに、スポ

ーツ精神、スポーツマンシップですけれども、それを中心としたまちづくりが今求められると思いますけれども、市長はこのことに対してどのようにお考えか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私もおかげさまで全国のいろんなところに呼ばれたり、自分でも行ったりしていますけれども、やっぱりスポーツが盛んなところって元気がいいですね。それも若い人たちだけじゃなくて、年配の方々もされているといったことで、ぜひやりたいと思っているのは、スポーツ施設の集約化をやっぱり図っていきたいということを思っています。

前に行った山形県の鶴岡市が本当にまちの中にスポーツ施設があって、物すごい——私は、平日に公務の前にその周りを走りよったとですよ。そしたら、平日の8時過ぎにそこにいっぱい人が集まってきて「何しに来んさったですか」と聞いたですもんね。そいぎ、例えば、ある人はグラウンドゴルフ、ある人はパークゴルフ、そしてある人はプールに行って、ある人はヨガに行くと。ああ、こういうことかと。しかも、お一人お一人がスポーツカードを持っとつとですね。持っとっけんが、本当いうと、これこそ市民生活に根づいているなと思いましたので、先進事例を見ながら、また黒岩幸生議員を中心として教えてもらいながら、そっちの方向にもかじを切っていこうというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

これは松山のマドンナスタジアムですね。ここは松山競輪場のあるところで、議長さんは行かれたことがあるですか。マドンナスタジアム、坊ちゃんスタジアム、そして運動は——何ですか、あるところですね。実は、これに写っているのは女性ばかりですよ。第8回伊予銀行杯が行われたんですけれども、これは全日本女子公式野球選手権大会が8月25日から29日に開催されました。ここでは——これは試合の様子です。上田議員さんは行きんさったですね。ザ・スパ武雄対ピュアエンジェルの試合があっているところですね。これが風景ですけども、これは体育館というよりも、屋根つき運動場というですかね。下が人工芝です。つまり、屋内運動場ですね。40メートル掛け40メートルで、全面人工芝。だから、野球はできる、ソフトはできる、サッカーもできる、あるいはまたグラウンドゴルフもできる、いろんなことができるんですね。雨天でも利用できる多目的広場がございます。

先ほど言われた、100億円の総合豪華運動施設。市長さん、武雄市もできると思うですね。銭はどこからか持ってくるか——武雄市もできると思うんですよ、100億円。それは、今度した指定管理者制度で15年間毎年1億円で15億円、さらには、国交省の補助2分の1やったら50億円、さらに合併特例債、7割以上補助を使えば35億円、合計の100億円のできる、夢

だけじゃないと思うんですね。武雄市もできるんですよ。

きのうも問題になりました。今、学校では「虐め」をなくす、文武両道が提唱されていることは御承知のとおりですね。きのう市長さんが言いんさったけん、漢字に変えてきた。虐待ですね、犯罪。暴力、傷害は犯罪ですよ。だから、教育長さん、いじめは最近、発見できる、できないと言われますけれども、五、六人のグループの中で、仲間みたいな顔をして1人の犠牲者をつくるというのが多いんですよ。だから、なかなか外には見えない。しかし、その人が訴えてきたときには何をしてやるべきか。それは、抑止力なんですよ。市長さん、絶対お礼参りをさせない。子どもから聞いた以上は、必ず守ってやるという抑止力が要るんですね。だから、文武両道というのは、もちろん力もですけど、子どもたちの上下関係、精神力を鍛える。この抑止力については、お隣の多久市と嬉野市が既にいじめ専門チームを設置されたですね。県内初です。ここは弁護士、警察関係者、そして学識経験者を入れて、専門的に当たっていかうということなんですね。今までこういうのは賛否両論もかなりありました。しかし、今回、佐賀県の教育委員会も対応困難な事例は警察へ相談しようという話がこの前、新聞に載っておりましたね。早期発見につながる、そして抑止につなげるということなんですよ。

学校では、いじめをなくす文武両道が提唱されております。スポーツマンシップ、これを取り入れた新しい武雄市が求められると思うんですね。図書館の指定管理者制度導入の費用効果、15億円、これをぜひ総合スポーツ施設建設に回していただきたいと思っておりますけれども、市長の答弁をお願いいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

確かに、図書館は1年で1億円、そして向こう15年ということで、15億円の行革効果が生まれるものと期待をしておりますので、そういった中で、あと新武雄病院ですね、増収分で、すなわちこれは広くいえば、スポーツも文化でありますので、これをスポーツ施設の財源の一端にして、なるべく市民に負担がかからないようにしてまいりたいと思っております。ですので、図書館はいろいろ御指摘もありますけれども、ぜひ前向きに、これがまた税収確保の一端となるようにしっかり支えていきたいと思っておりますし、とりもなおさず、これはちょうど白岩体育館とかがもう老朽化をして建て直す時期に入っておりますので、ぜひきょうの佐賀新聞のBMXでの記事のように、つくるのであれば、もう中途半端なものはつくらないと。上田議員さんうなずかれておりますけれども、陸連公認等、いろんな公認がありますけれども、そういう合宿場等に使っていただくような施設整備をぜひ進めてまいりたいと、このように思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

やはり世界から見てくれるような施設ですね。うちだけ、隣と比べてじゃなくて、もっと大きく国際的な考え方をしていかなければいけないと思うんですね。ぜひお願いしたいと思います。

それから、3D検索の実践。3D検索とは、辞書を引いてもありませんね。私がつくった俗語ですからね。それで、ITを生かしたまちづくりをしようという考え方でございます。

これは以前、ここの議会に出しましたけれども、1から19までは市役所の日常業務と言ったんですね。これは総務省の川島先生、つまり佐賀県のCIOだった方から、うちのIT委員会が習ったことなんですね。つまり、18、19は人にしかできないプロセスということを知ったんですね。これが間違いだったと思うんですよ。川島先生に失礼ですけども、判断、承認は人にしかできないプロセスというのは間違いだったと今思っているんですね。つまり、情報が入ってきます。そしたら、申請方法や連絡先情報を含んだマニュアルで個々に対応する、本もいっぱいあるですね、マニュアルたくさんあります。これを3D、電子計算機を使って——3D検索というのは三次元的検索ですね、x、y、z軸。全ての情報の中から機械的にしていくんですね。機械に判断させるということなんですね。必要なものを選別できるということですけども、こうすれば、国、県への報告や集計表が一括発行できますということなんですね。

ここに暗算、そろばん、計算機と書きました。当たり前ですけど、やっぱり違うんですね。どう違うかというのがこの3Dの考えですけども、当たり前ですけど、暗算やそろばんは、いろんな比較検討をして、選別して、答えを出します。つまり、例えば、25掛け5というのは、五五、二十五、二五、十と計算して出して、早い遅いは別として答えを出すんですね。計算機は、掛け算を知らなくても、25掛け5とすれば、素人であっても玄人であっても真っすぐ答えが出るんですね。ここが行政の大事なところですけども、ちゃんと整理さえしておけば、新入生であってもベテランであっても、ちゃんとした判断ができるというのが計算機ですね。首をかしげないでくださいね。

前言った話ですけども、動物の絵本の話をしました。行政の仕事って、ペーパーのことですから、二次元の世界ですね。だから、動物の絵本にラクダが何匹いましたかといったら、1ページからずうっと探して何匹と言いますね。終わったときに、今度、ライオンは何匹ですかといえ、また一からめくっていくというのが二次元の世界ですよ。三次元の世界は、これを上から見た話をしましたね。これは余り大きい声で言うたらいかんかわかりませんが、うちのCIOが持っている、山崎さんのパッセルなんですよ。パッセルを使えば、動物の絵本が動物園になる。そうすれば、上から見ればライオンが何匹、ラクダが何匹と、直ちにわかるということですね。それが3D検索。



だから、計算機を使えば、市役所の仕事を機械化して、計算機みたいになせば、素人であってもベテランであっても答えが出るという発想なんですね。1から19までは市役所の情報処理業務ですね。これを思い出したんですけれども、判断や承認は人にしかできない業務プロセスと川島先生から習ったんですけど、これが間違いだと思うんですね。ここを3D、マニュアルで選別をさせる。そして、機械的に判断するんです。ここが少し間違えていたんですね。機械的に判断をさせるということです。

もう少し、ちょっと頭を変えますけれども、3D検索とは、今言った三次元検索です。つまり、x、y、z軸から探すんですね。例えば、これだけいろんな条件があります。海に面したまち、南向き、病院、間取り3LDK以上、過疎地、気温の変化が少ないなどなどが、これを一遍にx、y、z軸によって、全ての条件を一度に比較検討することができる。それが、きのう市長がおっしゃった、地図上からポイントを絞って抜き取ることができると言われた、この方式ですね。だから、例えば、この条件の中で1つだけぼんと変わった。南向きが北向きになっても、ここから直ちに検索するのが山崎さんが持ってきているパッセル、3D検索なんですね。

機械と平面の違いですけれども、この前、北朝鮮がロケットを打ち上げたという話がありましたね。人間の判断は45分間、未確認やったですね。田中真紀子さんの旦那さん、田中防衛大臣は黙って45分は未確認やった。機械的発想をすれば、熱感知したときに飛んだんですよ。方向は5分後も360度まだ出ていない。結果的に、飛ぶ方向がなかったということですね。飛ばなかったじゃないんです。その考え方の違いですね。

3D検索は、医療部門では既に数多く取り入れられているんですね。3D検索というと誰でんわからんかわからんばってん、3D表示とすればわかるでしょう。今、パソコンの中に——私、心臓検査をこの前受けましたけれども、心臓の向こう側も見えますね。3D表示。あるいはまた、設計図、車も三次元的設計図を今つくりますね。キャドと言うたですかね、山口議員、キャドね。もう3Dは取り入れられたんです。だから、山崎さんのほうも医療部門では三次元を取り入れられているんですよ。今度一緒に行かれたんですけれども。しかし、二次元の世界、紙文書の中ではまだないんですよ。

これは市役所の情報処理と書かせていただきました。非常に最近では早くなったという話ですね。フェイスブックの情報によって、情報が物すごく早く入ってくる、迅速化する。市役所の仕事というのは、探さない、訊かない、訪ねない。この書類はどこにあったかねと探したらいかん、これは先輩に聞かんぎわからんと、聞きよっちゃいかんですね。まして、これは区長さんに聞かんぎわからんというて、訪ねていきよっては、仕事は進まないですね。だから、市役所の仕事を迅速化するためには、探さない、訊かない、訪ねないですね。そうするためには、3Dマニュアル、機械的に判断をしていくことが大事なんですよ。そうすれば、迅速&ノーミスの確立になるんですね。

ちょっと頭を少しやわらかくしましょうかね。今、市役所の皆さんは数字の読み合わせはしよっですか。もうしよらんでしょうね。数字を重ねれば、一発でわかるわけでしょう。そんな時代ですよ。返事の出んごたっです。まあ、いいです。これは後で言いますけれども、「迅速&ノーミス」の確立ですね。的確な情報処理と事務処理が機械でできる、計算機と一緒に。そして、国や県への申請書類が一度に選別をできるんですね。だから、行政文書の電子化、これは市役所のペーパーレス化、ここまで私はこの前のときも思っていました。この後に——ここが大事だった。機械的に判断させるということが大事だということですね。機械的に判断すれば、今言いましたように、「迅速&ノーミス」、計算機となるんですね。数字の読み合わせ、教育長、そがんでしょう。予算書を読み合わせるときに、重ねるほうを見つければ、あるかないか知らんですよ。なければ、それこそ、CIOにつくらせればいいんですから。そしたら、一発でわかる。読み合わせよったら、しよっちゅう間違。私も一つ「スポーツ」を「スパーツ」と書いとったらしかですね。何回読んでも間違うんですね。だから、機械に判断させれば、「迅速&ノーミス」につながっていくということですね。

結論を急ぎますけれども、けさ書いたんですけれども、きのうの話を聞きよって、ソフト交換と穴あきシートと書きました。ここが部品交換と修理と書いてありました。真ん中は特許が入っておりますので、クエスチョンマークをさせていただきましたけれども、市役所の仕事、例えば、子ども手当が変わったときに、すぐソフト交換さえすれば、簡単なものですよ。しかし、経費がかかっているということを考えなきゃならんですね。一枚一枚変えんでも、穴あきシートをつくって、それに対応できれば、安くなるという話ね。これもわからないと思いますけれども、こっちを見てください、部品交換と修理と書いておりました。今、ほとんどの機械は部品そのものを変えますね。例えば、エンジンの1カ所が悪いときに、エンジンを変えるという発想がソフト交換なんです。エンジンのねじがしよっちゅう悪くなれば、そこだけ変えればいいというのが穴あきソフトですね。という発想が3D検索ですけれども、市長さんはきのうの牟田議員の質問ですけれども、シリコンバレーでグーグルやエバーノートですか、会ってこられたと。この3D検索について質問を出してもらったかどうか知りませんが、山崎CIOを連れていかれたということは、あの人の持っている特許、パッセルの話があると思うんですね。ぜひとも聞かせていただきたい。世界の一流の人と会ったときに、この3Dについても話があったり、あるいはまた、グーグルやエバーノートについて話があったことを行政書類、大きな進歩があったのかどうか、ゆっくりでいいです。このことによって、もしこれができれば、武雄市はすばらしく経済効果を生みますよ。だから、知恵でもヒントでも結構ですので、市長がこの前行かれたときに話されたことで、あとは削りますから、時間は十二分にとっていいです。ぜひとも教えていただきたいと思えますけれども、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

答弁申し上げます。

山崎C I Oさんと牟田前議長さんも一緒だったんですけれども、3D検索について、特にエバーノートのところで山崎さんから話がされました。正直言って、3D検索は、僕は頭が3Dになっておらんけんが、わからんですもんね。だけど、山崎さんとエバーノートの外村さんというナンバーツーですね。もう完全にわかり合って、そこで2人の話を聞きながら、僕もわかりました。どういうことかということ、3D検索というのは最終的には自動ということになるんですけど、その前にタグづけが必要なんですよね。要は、例えば、これをそのままスキャナーで取り込んでいても、3D検索にはまずならないんですね。ですので、ここは人の手が要って、例えば、書類があったとするじゃないですか。今度の図書館ということで、いろんな書類があったとして、そうすると、実はそこに書いてある言葉でしか検索できないんですね。しかし、そこに例えば、タグづけで黒岩幸生というのを入れる。呼び捨てでごめんなさい。そうすると、黒岩幸生というタグがまたいろんなタグを呼び込むんですね。

ですので、そのときに図書館で入れたときに、自動的に黒岩幸生さんの当該議事録が出てくると。そういったことで、今の検索というのは、基本的にグーグル検索をごらんになればわかるんですけれども、優先順位というのがグーグルで決めてしまうんですよね。だから、必要かどうかかわかんないのがグーグルの順番で決められるので、そうすると、例えば、武雄市長と検索したら120万です。しかし、自分の欲しい情報というのはそこにないわけですね。だけど、繰り返しになって恐縮なんですけれども、そこに山崎さんがいうタグづけをきちんとしていれば、それは欲しい情報が——自動かどうかということまではまた別ですけども、やっぱり優先的に入ってくるということなので、ここは山崎さんが持っている特許ですよ。特にあの人はタグづけおじさんですので、タグづけおじさんのそういうお力をかりて、この3D検索にひもづけて、それを今度——グーグルと組むのか、エバーノートと組むのかというのは、ちょっと今最終的に調整をしておりますけれども、もし組んだとすると、その3D検索も入れた形で製品化をしていくということになろうかと思えます。そのためには、繰り返しになって恐縮なんですけれども、タグづけというところでやっぱりちゃんとしなきゃいけない。

きのう牟田議員にも一部お答えをいたしましたけれども、もう情報公開請求はしなくて済むようにしようと思っています。すなわち、情報公開請求に値するものについては、もう全て取り込んで、自宅でも、スマートフォンでも、いつでもどこでも見られるようにすると。しかし、行政書類というのは多分100万ページ以上になります。なったときに、それだけあると、自分が欲しい情報というのは、黒岩議員さんがおっしゃるように、すぐにはとられないんですね。ですので、どういったことが優先的にとられるかということについては、これ

は人の作業が必要ですので、そういう形で取り込むと。

あわせて、例えば、橋を検索する。きのう年玉橋と言いましたけれども、その橋を検索したときに、例えば、その橋の修理年月日だけ出てもしょうがないわけですね。ですので、例えば、その歴史的由来を含めて、地図もちゃんと出てくると、あるいは写真も出てくるというふうにまでして、特に武雄に来れば、どこでも武雄市役所の情報はとられるというふうにぜひ持っていきたいと思っております。

ですので、繰り返しになって恐縮なんですけど、これはもう情報革命です。今までは、市民の方々は市役所に情報公開請求をしなきゃいけなかった。わざわざ足を運んでとりに来ないといけない。どういう情報があるかもわからない。しかし、今度はそうではなくて、もっとより積極的にオープンにする立場から、いつでも、どこでもとりに来てもらえるというふうにしたいということと、これは議員御案内のとおり、陸前高田市等に何回か行ったときに、ほとんど書類ってもうないんですね。昔の資料もない。武雄市役所でいうと、昭和39年、昭和40年当時の市役所の改築、新築の資料もないといったときに、これは資料を残すと。ありとあらゆるものを残すという観点からも、それは絶対にやらなきゃいけないと思っています。

そういう意味で、黒岩幸生議員さんが3D検索とおっしゃったのも、これは多分半年前だったらできなかつたんですね。できなかつたんですけど、エバーノートもグーグルもこれに近い話はもう既にされていますので、それにうまくリンクができる。しかも、これは机上の空論じゃなくて、ちゃんと個人情報等を守った上で、武雄市をフィールドとして使ってもらうということも可能かと思えます。

最後にしますけれども、これをぜひ製品化したい。もう自治体はみんな困っているんですね。困っていますので、それを製品化して、安い価格で、薄利多売で売って行って、その一端をぜひスポーツ施設に充ててまいりたいと、このように思っております。

## ○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

## ○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

これの最初になったのが子ども手当なんですね。幸いか不幸か知りませんが、子ども手当の考えがころころ変わったんですね。そのたびにソフトを変えなければならなかった。しかし、それは、先ほど見た、ちゃんと埋め込むことができる、進化することができる、パッセルを使うことによって、穴あきシートさえ最初につくっておけば、そこがちゃんと出てくるというんです。という山崎さんの言葉が最初の発想なんですね。じゃあ、行政全体でできるじゃないかということで今取り組んでいますけれども、世界の武雄と言われるように頑張っていたらいいと思います——いや、我々も頑張ります。もちろんIT委員会もですね。よろしくお願ひしたいと思えます。

次に進みますけれども、これは武雄市図書館ですね。ここにCCCプラススタバがやって

きたということですね。これはスタバですけれども、実は市長さん、この前、家内と一緒に佐世保に行ったんですよ。ああ、これがうわさのスタバねと。いっぱいしておったけんですね、3時か4時ごろ。もうがんだかけん、帰りに行こうとって帰りに寄ったら、まだ多かったですもんね。コーヒーを飲みながら、多かったなあという印象がございます。図書館とコーヒー、是非が今いろいろ言われておりますけれども、私は「TSUTAYAプラススタバといえば」と若い人に聞けば「若者のまち」と言われるんですね。もちろん、年寄りもいるんですよ。TSUTAYAプラススタバ、スタバなら若か者の寄ってくるばい。若か者の寄ってくるぎ、市長さん、キッズコーナーをぜひつくってくれと。こういうことがあれば、若いお母さんたちが子どもを連れて、30分なり1時間本を読みたいと。しかし、子どもを抱えてコーヒーを飲むわけにいかないと。だから、すぐ目の近くでいいから、子どもに何かあったらすぐ行きますと。しかし、ちょっとコーヒーに手が届かないところに子どものキッズコーナーを置いてくださいという声はかなりありました。ぜひともキッズコーナーを設けていただきたい。そしたら、安心して本を読みながら、子の近くでコーヒーを飲めると、ゆっくりした時間がとれるということでございましたので、ぜひともこれは実現していただきたいと思います。

これは上から見た図ですけれども、きのうも市長さんは図書館を知的活動の拠点にするとおっしゃいましたね。そうであれば、どこでもいいです。この近くにぜひともシェアハウスをつくっていただきたい。

〔市長「いいですね」〕

シェアハウスというのは、皆さん御存じだと思いますけれども、一つの住居を複数人で共有することという意味ですね。四国の徳島県神山町、ここは何をしたか。NHKで報道があったんですよ。通信環境を整備した。つまり、平成16年に各家庭まで光ファイバーを引いた。そしたら、田舎へ、過疎地へIT企業が進出した。起業の中にはこういう起業もあるんですよ。これが背景にあると。それも、TSUTAYAプラススタバというただけでも、若者が来るて感じですね。東京本社とウェブ会議ができると、IT企業がおっしゃったんですよ。これを見られた方は余計おられると思いますけれども、川の中で足までつかってパソコンをいじっている姿が出たんですよ。神山町の古民家をサテライトオフィスにする。パソコンと机があればいいと言いますからね。つまり、住環境を重視するという考え方ですよ。

〔市長「いいですね」〕

もちろん、インターネットさえ接続できれば問題はない。距離がなくなりますから、これこそまさに四次元の世界ということです。

シェアハウスですけれども、若い人たちはこうおっしゃるんですよ。当たり前のことを当たり前と捉えず、生活を変えていこうと、こういう発想の人たちが集まるというんですね。IT関連、仲間同士が集い合う、そういうシェアハウスを、きのうたしか市長さんは第二

の……

〔市長「シリコンバレーです」〕

シリコンバレーですね。ぜひとも——発信地ですから、大きい、小さいじゃないですね。いろんなところを、そこからスタートですね、アップルでもどこでもですね。ぜひそういう発信のところを——だから、うちはグーグル、うちはエバーノートとつながっているよというところを売り出して、世界の武雄、ここをぜひともお願いしたいと思います。

図書館にキッズコーナー、シェアハウスを隣接してほしい、そういう若い声がございしますが、どのように考えられるか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、図書館にちょっと併設するという意味でのキッズコーナーは実は今まだ考えていなくて、図書館の中にキッズコーナーを今の面積の倍ぐらいにとりたいと思っています。その場所については、正面を入れて右手のところにスターバックスが横に並びます。その奥にキッズコーナーを今の面積の倍ぐらいにとりたいと。そこには簡単な遊具も入れたいと思っています。

それで、その中で大事にしたいと思っているのは、やっぱり目に見えるところで本を読める、コーヒーが飲めるというふうにしたいと思っています。それでも手狭になった場合に、黒岩議員さんがおっしゃるように、そこに隣接するところにつくるということもあり得ると思っています。まずは図書館内でキッズコーナーをきちんとやっぱり確保したいというふうに思っています。

もう1つのシェアハウスは、横文字なんですけど、これは現代版の長屋で、実際に例えば食事をしたり、そこでくつろぐというのは共同のスペースで、住む分にはそれぞれ個室というふうになるんですけど、これはぜひつくりたいと思っています。要は、今度は図書館に今まで行くという発想だったんですけど、知的拠点の場になるので、図書館に住むという発想、それとあわせて、そこにはオフィスを置くと。今までこういうシェアオフィスというのは全国の至るところにあって、ことごとく失敗しているんですね。それはなぜかという、住むところの離れとおぎ、やっぱり東京がよかねというふうになりますので、図書館で資料を探す、あるいは発信をする、そしてカフェでくつろぐ、これはダイニングも簡単なのがつきますので、その真横に住むという発想。それと、プレゼンルームをつくって、かつ、そこでいろんな企業の発信をしたり、その交流の場にしたり、そしてあわせて住むということで、ぜひこれは考えたい。

これは議員御案内の鳥取県か島根県かちょっとどっちか忘れちゃったけど、海士町という離島があります。ここは、こういうシェアハウスじゃないんですけども、町営住宅を起業者

に物すごく安い価格で貸しているんですね。その起業家が何をやっているかというところ、そこでナマコビジネスをやっている、大当てをしているんですね。だから、あるものを活用するという観点から、我々のところであるものというのは、これはあるもの探しをしなきゃいけないんですけども、起業家の皆さんたちにそれをつくってもらって、連携をして発信と。

やっぱり今武雄はどうなっているかというところ、黒岩先生、あなたなんですよ。やっぱり今ユーストリームで流れていますけど、黒岩先生のは2,000人が見よおですもんね。それと、もう1つは山崎さんです。きのうの牟田さんも物すごく見られています。ですので、議員さんであるとか、うちのCIOとか、あと我々行政というのは物すごく今注目を集めていて、ああ、こういう議会ならば、移り住んできてもいいねというふうになっているわけですね。だから、議会は物すごく大事です。足を引っ張る方々もいっぱいいらっしゃいますけどね。ですので、物すごく大事ですので、そういう面はぜひ前向きに黒岩議員さんがおっしゃるよう進めていきたい。

最後にしますけれども、そこには絶対に通信環境が必要なんですけど、ただ、いかんせん武雄も田舎なので、太いのは来ていないので、そこはもう少しつなげた上で、あとはWi-Fi、無線できちんと飛ばすということもあわせて必要だろうと思っております。

いずれにしても、シェアハウスはぜひその横につくっていきたいと思います。これで住まなくなあざんた、ちょっとぐあいの悪かけんが、その場合は議員さんたちに住んでいただく、このように思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

23番黒岩議員

**○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕**

少し時間を食い過ぎているので、飛ばしますけど、これは先月号ですかね。松尾葉奈さん、目がすばらしかったですね。北方の方です。「全九州女子相撲に県代表で出場」ということですね。めくってみますと、これまたすばらしかったですね。「“図書館”条例、激突の末に可決 全国的に注目の6月議会」、こう書いてありましたから、これも非常にこういう言葉が来た。結果は書いてあるけど、中身のわからんと。詳しい内情を知らせてほしいということが、この前、井上一夫さんですか、あの方もわからんと。公の場で言えという話でございますので、言いながら聞きたいと思っておりますけれども、まず最初に皆さんの目に入ったのは5月5日の新聞だと思うんですね。うちは佐賀新聞ですけども。3月定例議会で吉川議員さんの図書館の民営化について質問がここでありました。議員はみんな知っていると思うんですね、眠っていない方はね。そのときに出たのが市立図書館の運営、レンタルソフト店TSUTAYAを運営するCCC、カルチュア・コンビニエンス・クラブに委託ということが載ったんですね。これはそのとき使ったんですけど、武雄市が図書館委託計画、TSUTAYA運営会社に、年中無休、開館4時間延長、利用カードはTカードを利用。つまり、年中

無休、開館4時間延長、Tカードが利用できる、さらに費用効果は毎年1億2,000万円ということで、私たちはというよりも、私が賛成した大きな理由がこれです。年中無休、開館4時間延長、Tカードが利用できる、いろんな意味でカードはもっともっとふやしたいですけどね。それから、費用効果が1億2,200万円。それは市役所を365日、年中無休にしますよ、9時から21時までですよ。つまり、直営で、市役所が自分の手で365日、9時から21時まですれば、開館日が伸びますので、これは1.1倍の経費が要ります。開館時間が4時間延長しますので、これは1.5倍要ります。合わせて1.6倍の経費が要りますよ。ざくっと計算していますからね。年中無休、4時間延長すれば、1.6倍の経費が必要ですと、こうなりますね。そうすれば、今1億2,000万円と言われますけれども、1億4,500万円を1.6倍すれば、これは2億3,200万円になるんですよ、直営であれば。しかし、これをカルチュア・コンビニエンス・クラブ、CCCさんは1億1,000万円ですと今言っている。そうしたら、この差額、つまり、費用効果は1億2,200万円あるんですよ。だから、1億円はあるんですね。15年で約15億円になるんですね。だから、市長さん、こういうのはやっぱり右から左に行くように、目に見える形、そうすることが市民の皆さんたちが、ああ、これはこうなったんだなとわかると思うんですね。それを踏まえて、市民の皆さん方へ直ちに還元する、そういう姿勢が必要だと思いますけれども、どのようにお考えか、答弁を求めます。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

追って、予算案というのは、恐らく4億5,000万円ぐらいになると思うんですけども、これを議会に提出するということになりますので、そういった意味では、15億円引く4.5億円、まあ5億円としましょう、10億円の効果があるということを経験した場合に、我々としては、確かにおっしゃるとおり、行政の下手なところなんですね。これはどこに還元されたかわからないということですので、黒岩議員がおっしゃっていただいたように、いや、一部はこのスポーツ施設になりましたとか、あるいはこの一部分というのは、例えば、これだけ安くなりますとか、そういったものについて、それはちょっとよく議会のアドバイスをいただくということを思っております。私は議会第一主義ですので、後ろ向きな人は嫌いですけども、第一主義ですので、そういった意味で、議会のアドバイスで、この還元部分はこういうふうに使いなさいということ。黒岩議員さんはスポーツ施設というふうにおっしゃって、私もそれに近いなと思っておりますけれども、いろんな御意見等があった場合には、それはぜひ執行部と議会ですり合わせた上で、市民の信を問うという形のほうがいいのかなというふうに思っています。目に見える形で還元するということが全体に大事だと、これは認識を同じくするところであります。

**○議長（杉原豊喜君）**



23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

次のプリペイドカードについては、余りにもちょっと時間を食べ過ぎますので、これは省略させていただきます。

さらに、きのうも出てきました、17対8の賛成多数ということですね。そして、ここに賛否表を書いてございます。黒は反対、白は賛成。宮本議員、石丸議員、石橋議員は反対ですね。朝長議員、山口等議員、上田議員、山口裕子議員、山口良広議員、松尾陽輔議員は賛成ですね。小柳議員、吉原議員、反対ですね。古川議員、上野議員、吉川議員、山崎議員、末藤議員、小池議員は賛成ですね。谷口議員、平野議員、江原議員は反対ですね。山口昌宏議員、川原議員、牟田議員、松尾初秋議員、黒岩——私は賛成でございます。

それでは、一体私は反対の皆さんの意見にどのようなことで賛成したかということをごここで表明して、賛成討論の後ですので、執行部の意見も聞きたいというふうに思っております。

まず、個人情報漏えいする。突然の合意発表は認められない。いきなり持ってきて何かと。先ほど谷口議員さんも、何か後出しじゃんけんみたいなことを言われていましたけれども、条例改正する必要はない、これが私は勉強不足で大分迷ったんですけどね。さらには、文部科学大臣が反対している、大体これが骨子だったろうと思いますね。

まず最初の個人情報漏えいする、これは何回でも執行部の話を聞いたんですけども、テレビを見てもらう人にぜひ言いたいんですけど、本を借りればTポイントがもらえますよと。もう1つは、ここですけども、分析装置で読書の志向がわかりますよと。現在、アマゾン、あるいはほかの本屋さんでは類似新刷の情報が提供してもらえます。だから、非常に助かるという方が多いんですよ。例えば、黒岩幸生は放射能の本を福島のことを買っていったとなれば、新しい放射能に関する新刷が出た場合は送ってくれるんですね。私がまた放射能の本が出ておらんやろうかといって本屋を回らなくても、新刷が出たときに送ってくれる、そういうシステムに役立ててあるんです。しかし、これは個人情報だということで、漏えいするじゃないかと。—〔発議〕—呼ばわりされた議員もいらっしやいますけどね。

〔市長「ほんなごてばい」〕

それは、じゃあ、入らなければいいだけの話なんですね。

〔市長「そうそうそう、そうさ」〕

それと、個人情報保護審議会で、7月6日、会長は松尾弘志弁護士さんですけども、こうおっしゃっているんですね。要約してはいますけれども、ポイントシステムの情報提供や図書館利用情報などは、本人の同意や個人情報に関する協定書を締結することによって問題ない。大体個人情報やろうかという話もありますけどね——ということです。だから、繰り返しますけれども、個人情報というのは、やはり気になれば入らなければいい。入るときには、ちゃんと同意書をとれというのが弁護士さんの話でございます。これは個人情報保護ですね。

利用者として本当に心配ないのか、きのういろいろ詳しいことをおっしゃいましたけれども、心配ないなら心配ない、あるならあるで結構ですので、時間の都合もありますので、一言で結構ですので、お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もう私は石丸定議員が一〔発議〕と特定の会社を指しておっしゃったというのは、もう断じて許すことができません。もうあれは本当に武雄市議会の良心、良識を疑いますよ。一〔発議〕なんてどういうことなんですか。ですので、私は同意という観点からすると、全く心配はないということをごをぜひ伝えたいと思います。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

個人情報漏えいする……（発言する者あり）あした言われて結構ですよ。

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○23番（黒岩幸生君）（続）

あした質問されるとでしょう。ここで言わんで、あした言うてください。（発言する者あり）

突然の合意発表は認められない、市民の合意ができていないじゃないか、後出しじゃんけんじゃないか、このことについて少し言いますが、実はこれは、今、議会にどういうものが出ているか、議員なら誰でも知っていることですが、執行部が議会へ提出する場合は、実現可能なもので、しかも、確実なものでなければならない、これは当たり前の話ですが、これは議会に出されたものですね。建設工事請負仮契約書ですよ。これは和田住宅ですね。こういうものが議会に出されているということですね。ここは4万円、4万円の8万円の印紙ですね。消印までしてあるんですよ。これが議会に出されているんですね。じゃあ、議会との立場というのはここに書いていますが、この契約書は議会の議決を得たときに契約になりますよ。それであっても、消印をまた持ってくるんですよ。それだけ議会は格好よく言えば、高いところとか、そういうところなんですね。武雄市議会で議決されなければどうなのか、それは契約は成立しない、つまり無効になるだけの話なんですね。

では、これはどうか。これは基本合意書ですよ。どういうのを合意してこられたかといいますと、開館時間の大幅な延長はしていいですよ、収蔵資料の大幅な増大はしていいですよ、あるいは郵便返却制度も利用せんですか、あるいはTカードなども利用させますよとなった

ね。そういう合意を持って、これだけしてくれる会社ですから、どうですかという話でしょう。これを武雄市長とカルチュア・コンビニエンス・クラブの増田社長さんと結ばれた。この合意書が武雄市議会で議決されなければ、合意は成立しないだけなんです。

〔市長「そうです」〕

その前に自分ができて、この前、発表がありましたように、報告がありましたように、教育委員会に持っていく。教育委員会はこれを公募していいか、あるいは公募しなくていいかの審議をして、じゃあ、これはいいでしょうとなったら、今度議会に来るということですね。だから、そういうものだという事ね。

教育委員会は市長の合意書をどのように扱ったかということで質問しておりましたが、きのう長々とこのことでいろんな質問がありましたので、これは時間の都合上、省かせていただきます。

それから、これも教育委員会が4月26日を4月29日とした理由を詳しく説明してほしいときょう書いたんですけども、さっき言われましたので、これも省略しますね。

それで、個人情報と突然の合意はそういうことなんです。じゃあ、条例改正をする必要はない、このことに触れますけれども、この文部科学大臣はちょっと外しておきますね。なぜ条例改正をしてまで市長部局ですかという話ね。これを私は勉強しましたよ。非常に難しかったですね。なぜ条例を改正してまで市長部局ですかということですけども、これは条項がなかとですよ。条項がないから、条項の追加をする、これが条例改正という言葉ですね。それと、条例で市長がするとなっているんですよ。何も変えたとじゃない。だから、条例の定めどおりしているから、市長がしたんだということですけども、もう少し詳しく説明しますが、地方自治法第244条の2の第3項ですね。これは条項がないんですから、条例を定め、指定管理者に管理を行わせることができるというのが地方自治法第244条の2の第3項ですよ。これに従って動いていますからね。

そして、4項、どういう項目かといいますと、指定管理者の指定の手續、管理者が行う管理の基準、業務の範囲、先ほどいろんな場所を言われましたね。そして、その他必要な事項を条例で定めなければならないとなっているんですね。

そして、第5項では、この前、議会でしましたけれども、管理の期間、これだけをちゃんと議会で決めていくんですね。これは見えませんが、武雄市図書館・歴史資料館設置条例なんです。こちらは武雄市体育施設設置条例なんです。ともに平成18年3月1日、条例を改正されていますね。その前からされているか知りませんが、私は18年の3月1日と書きました。これが最初なんです。このときはもちろん私は議員ではありませんでした。しかし、武雄市の体育館では、指定管理者による管理が第13条に載っています。第14条には業務の範囲が載っております。第15条には利用料金が載っております。第16条には準用が載っている。武雄市の体育施設設置条例には、18年3月1日に条例改正したときに4つ載ってい

るんですよ。武雄市の図書館・歴史資料館はどうかといいますと、皆さん、議員は全部わかっておるでしょう。条項の制定はされていないんですよ。だから、この前の6月議会で変えたんですよ。6月議会では、条例改正という言葉ですけども、皆さん、条項の追加をしたんですよ。第14条、指定管理者による管理、第15条、業務の範囲、利用や維持管理ね。第16条、準用を入れたんですよ。だから、条項の追加は必要なんですよ。それを条項の追加という言葉じゃなくて、議会で条例の改正ということでしょう。だから、これがなければ指定管理者はできない。だから、条項を追加したんですよ。条例改正は必要なんです。

佐賀県内を調べてみたんですよ。早くこれを聞いておればよかったんですけども、佐賀県内10市を調べてみますと、伊万里は武雄と条例が一緒ですよ。つまり、これは第6条関係ですけど、指定管理をする人ですね。伊万里と武雄と唐津と鳥栖は市長が指定するとなっている。条例はそうでしょう。ほかの6市は教育委員会となっているんですよ。もっと不思議なのは、今度うちもしましたけど、鹿島市以外は指定管理者による管理、業務の範囲の条項はないんですよ。だから、指定管理者を入れるときには、残りの8市、鹿島とうちを省いた残りの8市は議会に諮り、条項の追加、つまり条例改正をしなければならないというのが現状です。こういうことを提案のときにもっともっと我々に詳しく教えていただきたいかと思うんですよ。

それから、武雄市公の施設の指定管理者の指定の手続に関する条例と、少し長いのがあります。これは平成18年3月1日に改正されております。そのままです。第13条、この条例を教育委員会が所管する公の施設、これは今回の場合は武雄市図書館・歴史資料館に適用する場合は、第2条から第5条となっていますね。第7条から第11条までとなっている。一つ抜けていますね。それが第6条なんですよ。第6条が抜けているんですよ。だから、第2条から第5条、第7条から第11条は、市長とあるのは教育委員会、だから教育委員会ができますけど、第6条はできないということなんですよ。じゃあ、第6条とは何か。市長は、指定管理候補者について、議会の議決があったときは候補者を管理者に指定する。つまり、武雄市の条例は市長が指定するとなっているんです。もちろん、提案するのは条例ですからね、地方自治法で。

第13条、この条例を武雄市図書館・歴史資料館に適用する場合は、第2条から第5条、第7条から第11条まで、市長とあるのは教育委員会とするとなるんです。つまり、第6条は除外されている。

〔市長「そうそう」〕

そうすれば、読みかえができませんので、教育委員会ではできないんですよ。

〔市長「そうです」〕

ここですね、第6条は除外、だから、教育委員会はできないということなんですよ。条例に管理、業務の範囲、準用はないんですよ。そういう状況の中で、こういうのを追加しなく

ても、条例改正しなくても、指定管理者の指定はできるんですか。答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは非常に条例の形が複雑で、多分それを批判された谷口議員さんも江原議員さん、ほか数名も多分これがわからなくておっしゃっていたんじゃないかなあと思うんですね。だから、これは仕方がないと。条例が非常に複雑多岐にわたっているので、これをもう今さらどうこう言うつもりはないんですけれども、第6条、これはしっかりした文章が残っていませんけれども、何でそれを市長にしたかという、恐らく施設ごとによって、これは教育委員会だとか、これは市長部局だというのを分けずに、一括して、これはもう市長が教育委員会の施設であろうとなかろうと、それについては指定管理者にラベルを張るということで整理をされていたと思うんですよ。ですので、まあ、谷口議員さんも、江原議員さんは山内町だったから、よくわかんないんですけれども、そのときに議論をされているはずだと思うんですね。ですので、そういったことで、私ははっきり言って勉強不足だというふうに思います。だから、追加しなくてもできるのかというのは、できません。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

勘違いならうれいんですけど、故意にされたんであれば、やっぱり今後考えていきます。

〔市長「いや、故意じゃないでしょう」〕

個人情報はわかりましたね。突然の合意、条例改正する、文部科学大臣が反対している、これはどうなのかということですね。文部科学大臣が反対しているとおっしゃる。だから、反対だということなんですね。これは調べました。2008年6月3日の文教科学委員会で、民主党の植松恵美子議員、この方が公立図書館の指定管理者制度の導入はどのような状況かという質問ですけれども、これまでの評価や認識、さらには今後の取り組みについて質問があったんですね。つまり、公立図書館の指定管理者制度の導入状況について質問があった。当時の渡海文部科学大臣は、導入の経緯は理解されていますよねということで、肯定文が出ているんですよ、一言ですけど。古いことですがと言われました。平成17年の実績は1.8%と低い。それは指定管理者期間が短いから、あるいは長期的視野に立った運営が必要な図書館にはなじまないというか、難しいとおっしゃった。つまり、長期的視野に立った運営が必要な図書館にはなじまないというか、難しい。だから、1.8%と低いんですよとおっしゃった。ここですからね。長期的視野に立った運営が必要な公立図書館運営にはなじまないというか、難しい。指定管理者の希望者が少なかたですよ。たった5年で、もうけもせんと、来んとですよ。来ないから、誰にしようかとなって、結果的に自分のところではよる

ところが多いんですよ。近くの市もそうですよ。だから、難しいと。だから、制度導入、実績が1.8%と低いですよという話ですよ。職員の研修機関の確保や長期的視野に立った運営、後継者の育成など、懸念されている問題を払拭すれば、指定管理者制度は導入されるべきだ、それはそうでしょう。所管の大臣ですよ。所管の大臣がその導入に反対するというのは、そんな大臣は首ですよ。大臣は制度導入に賛成の答弁ですね。

だから、渡海文部科学大臣は指定管理者制度導入は難しいとは言ったが、反対だとは言っていないと思いますけれども、時間がございませんので、簡単に答弁をお願いします。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

これは私は平野議員さんが引用されて知ったんですね。たまたまそのとき手元になかったもので、危なかったですね。またはめられそうになりましたよ。本当に都合のいいところだけとって、いつもの揚げ足取りなんですけど、よくよく読んでみれば、黒岩幸生議員さんから後で教えてもらいましたけど、そのとおりなんですよね。ですので、やっぱり我々とすれば、全体をきちんと把握した上で答弁をする、考えるということが必要なんだなということで、平野議員様の質問で学びました。ですので、こういう質問にお答えすると、反対だとは言っていない、むしろ推進です、賛成です。これは私からも答弁をさせていただきます。揚げ足取りはやめましょう。

**○議長（杉原豊喜君）**

23番黒岩議員

**○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕**

これは、議会に出されました少数意見報告書なんですね。ここは図書館になじまないとしています。だから、これが反対の理由ですよと書いてあるんですね、少数意見報告書ですからね。これは福祉文教委員会で出されたものですね。少数意見報告書というのは、議長さん、委員会で少数意見を留保した意見のみの報告ができる。自己の意見を述べることはできない。委員長さえ自分の意見は述べられないんですよ。それを少数意見を少し出して、だらだら——武雄じゃないでしょうけどね、だらだらと討論みたいにすることはできない。それは、質疑する前にインプットを与えたらいかんからですよ。議会の王道、みんなが平均に審議する前にいろんなインプットを与えたらいかんから、意見を述べたらいかんということですね。

もとに戻りますけれども、平野議員さんと石丸議員から少数意見の報告書が提出されたですね。

〔市長「仲よしね」〕

第48号議案です。ここに意見の趣旨ということが、これが反対意見ですね。3つ書いてあります。

1つ目は、公立図書館の管理運営形態は多様であります。これは反対じゃなかですね。状態でしょう。

2つ目、図書館の運営は、継続して実施することが望ましい、これも当たり前の話ですね。

じゃあ、どこか。ここですよ。図書館になじまないとしています。これが反対意見ですね。

〔市長「そうです」〕

図書館になじまない、ここですよ。3番目、2008年6月、文教科学委員会での文部科学大臣の答弁は、図書館への指定管理者導入は長期的視野に立った運営が難しくなり、図書館になじまないとしている。私はさっき違うように言いましたね。少数意見報告書では、長期的視野に立った運営が難しくなり、図書館になじまないと渡海文部科学大臣が言っている。なじまないと言っていますよに変えてある。大臣は何と言ったか。先ほど言いましたように、大臣が自分のところを否定することはありません。大臣は推進しているんですよ。しかし、実績が少ないということです。大臣は何と言ったか。議事録のとおりですよ。指定管理者制度の導入は、長期的視野に立った運営がなじまないというか、難しいと言ったんですよ。調べてみてください。それを変えたんですよ。私はここで質疑しましたね。ここで事務局の間違いじゃないかと、打ち間違いじゃないかと何回も言いました。しかし、間違いじゃないということでございましたので、これを変えれば、こうなんですよ。

〔市長「これは詐欺やなかか」〕

難しくなり、図書館になじまない。

〔市長「詐欺ですね」〕

だから、文部科学大臣が反対しているということを言われたんですよ。平野さんはそういう人じゃなかったですけどね。職員の研修機関の確保や長期的視野に立った運営が後継者の育成に必要ななど、懸念されている問題を払拭すれば、指定管理者制度を導入されるべきだと。

〔市長「そうです」〕

大臣は制度導入に賛成の答弁でございます。

文部科学大臣が反対している、これは間違い、勘違いだと思いますけどね。文部科学大臣は推進している、それは当然ですね。それをしなければ、文部科学大臣は罷免ですからね。反論があれば、後で聞きます。あした石丸議員が持っていますので。

つまり、この4つがどうしても私としては理解できなくて、私はこの反対に対して、そういう意見の討論をしました。

先ほど言いましたように、ちょっと時間がないですからね、こういう丁寧な説明を今後よろしくお願ひしますね。これは質問しません。

私が言いたいのはここからですよ。市民のためのオール武雄、これは熊本県菊池スカイラ

インから見た大観峰です。ここなんかは天下一家の会があるんですよ。ネズミ講。ちゃんと覆い隠して、もう見えない。私が言いたいのは、みんな白い雲の上で、新しくやり直しましょうということです。明るく朗らかな武雄市、そしてスポーツを愛し、誰もが安心して暮らせる市民のための政治、市民のためのオール武雄をつくっていかうと、そして世界の武雄と言われるようになっていかうと思うんですね。右、左とかいろいろ言わんでね。

きのう実は江原議員も、それから谷口議員もおっしゃってもらっているのは、指定管理者制度を認めて、次にすばらしい図書館をつくろうとやっぱり2人とも言われている。ちゃんと聞きましたので、オール武雄でいかうと、コップを揺すらずに、誰でも水を入れるようにやっていきたいと思えますけれども、どのようにお考えか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

そうあってほしいものだと思います。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

市長さん、だから「北風と太陽」でいきましょう。服を脱がすためには太陽、北風では服は脱ぎません。

放射能問題について——時間があと3分ですね。ちょっと大事なところだけ、とんとんといきますけれども、福島原発に何を学ぶか。政府はつまらんですね。

〔市長「つまらんね」〕

放射能をどうするというを最初にしなければ、けさも新聞に出ておりました。溝を一つ挟んで、片一方は米が出荷できない、米を出荷する、いまだに何をしておろうかと。何もできないなら、民主党政府に1票返せと私は言いたいです、1票入れたけんね。

これは9月1日の新聞です。原子力安全委員会は、ここで政府はIAEAに謝ったんですよ。勧告に応じなかったと謝った。しかし、IAEAはそういうことを求めている。何か。福島原発事故でどう対応したかですよ。チェルノブイリで24時間以内にヨウ素剤を配るとか、いろんな考えをしたけれども、苦慮した。だから、IAEAは日本から新しい教訓を学びたかったんですよ。恐らく日本は孤立するだろうと、今言われていますね。これはちょっと質問しません。

9月3日の佐賀新聞ですよ。ごっといぼろくそ書かれるばってん。市長いきますよ。「事故対応、現実的に実践 伊万里・武雄原子力防災訓練」、伊万里と武雄は応援協定を締結した、これはすばらしいと思います。しかし、これは新聞に載った、こここのところですよ。福島県飯舘村の例で、風向き次第では40キロ圏外も危ない。9月2日の訓練、私はここに電話



をしました。原発事故発生ということで電話しました。何を聞いたか。風向きはどっちかと聞いた。そしたら、本部がこの爆発は北北西の風とおっしゃった。北北西なら、こういう風ですよ。

〔市長「そうか」〕

北方はいち早く北方公民館に現地対策本部を立てた。どこで切れるかわかりませんからね。これは誘導するために、消防団員の方がおった。たまたま映ったんですけども、うちの隣の人ですよ、3人ともね。見た途端、私は本当にかわいそうかった。北北西の風でこっちに飛んできているのに、彼たちは避難誘導をするわけですからね。北北西の風といえば、玄海原発からこのように飛んでくるんですよ。これはスピーディの、この前出たんですからね。ここが武雄市でしょう。これが伊万里市。伊万里市からこう避難するんですよ。

そういうことですので、今後ともよろしく願いいたします。

以上、終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で23番黒岩議員の質問を終了させていただきます。